

令和5年度 第2回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和5年9月22日（金）午後2時00分～午後3時30分

開催場所：岡崎市役所 東庁舎6階 601

出席委員：7名

瀬口哲夫委員（委員長）・杉野丞委員・三浦正幸委員・中井均委員・丸山宏委員・奥田敏春委員・堀江登志実委員

欠席委員：なし

説明のために出席した事務局職員：6名

社会教育課：田中典子課長・鈴木幸宏副課長・菅沼貴之岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事

「どうする家康」活用推進課：吉村 隆希活用推進係係長

傍聴者：なし

次第

副委員長の選任

加藤安信委員の退任に伴い、杉野丞委員が選出された。

- (1) 岡崎城跡坂谷曲輪発掘調査について
- (2) 二の丸便益施設等の延長について

報告

- (1) 乙川河川緑地のさくら植樹について

議事内容

- (1) 岡崎城跡坂谷曲輪発掘調査について

事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

委員：調査はいつからか。

事務局：令和6年1月ごろに開始予定。調査期間は1か月を考えているが、遺構の出方によって、埋門の基底部の石が多く出てきたらもう少しかかるかもしれない。今年度内で終了予定。

事務局：次回の委員会で現地確認の予定。今回の発掘調査成果をもとに坂谷曲輪の整備を進めていきたいと考えている。そのあたりも踏まえてご助言いただきたい。

委員：トレンチの中に松があるが抜かずに行うのか。

事務局：松は伐採したうえで発掘する予定。

委員：木は細いから最近のものだろう。

事務局：古いものではないと認識している。昨年伐採した帯曲輪の、二股に分か
れている松が、(西暦) 1880 年前後なので、それよりは新しい。

委員：昔の絵図からずっと見ると、今度のトレンチの真ん中くらいまで堀が入
ってきていると想定されるが、堀を埋めてから植えた松という考えか。

事務局：そうです。伊賀川河川改修後の話。

委員：絵図をみると、丸馬出しがあつて虎口になっているが、調査で時期差が
あるものなどは今のところ見つかっているのか。今の遺構の年代を決め
られる遺物はあるか。

事務局：今出ている遺物としては、瓦が数点と瀬戸焼の陶器が出ているが、この
年代に混ざってくる遺物はまだ見つかっていない状態。

委員：数年前に比べると、何となく姿がはっきりしてきた印象があるが、ほぼ
全部掘るとなると、前回の枡形と、構造が少し分かって建物の位置が分
かるかもしれない。

委員：枡形の中の、横ではなく縦の長さが 5 m ほどだという記述がどこかにあ
ったと思うが。

委員：はっきり枡形とわかるのは⑧番以降。⑧図⑨図は道のりが分かれば東西
南北の差が分かる。それと現在の発掘の状況でだいたい位置関係が入る
ような感じか、という質問ということか。

事務局：現在の発掘調査の縮尺でいうと、東西軸では 5 m ではきかないはず。

事務局：図 4 に記載がありますが、東西で 18.5 m。

事務局：今回発掘すれば、枡形の大きさもはっきりしてくると思われる。

委員：文献でもそのような寸法がでていれば、参考になる。

委員：坂谷門の南の、坂谷門を区切るような石垣とか、そちらまでトレンチの
幅を広げるというのはどうか。坂谷門の曲輪の幅などが確定できない
中、今までの発掘でトレンチの 3、4、5 でほとんど石組みはなくなっ
てしまっているのであれば期待薄かもしれないが、南側もトレンチを入
れた方がいいかと思うが、どうか。

事務局：今回、坂谷門というフォーカスでいうと、坂谷門に接続する部分で
元々の既存の石垣よりも幅を広げてある。門自体に、塀の取り付け部分
は今回の調査で確認できるはず。前回の調査で、外門の北側にもトレン
チを入れているが、実際に絵図等を重ね合わせてみると、前回のトレン
チよりももう少し東側まで伸ばしておかないと塀の取り付け部分は見つ
からない。外門に付くくらいでトレンチを設定して調査をしたが、今回
は絵図に倣ってもう少し東側、内門に近いくらいに取りつくのではない
かという想定でトレンチを設定している。前回、北側は調査したので南

側も、いうのもあるが、門に取りつく構造を確認したいので、最低限費用や期間等を考えるとこれくらいの、3mくらいの余裕を持たせて門より広く掘るとというのが適正かなと考える。

事務局：今回、国交省の補助金を使って行う事業になっている。普及啓発というところで現地説明会も予定している。

委員：文化庁ではないのか

事務局：国の史跡ではないので文化庁の補助金はつかない。

委員：添付資料3について、この水色のラインは昔のお堀のラインをイメージして落とし込んでいるのか。絵図からすると、坂谷門の東側にぐっと入ってこないといけないのでは。馬出しの位置も、東側に寄ってこないといけないのかなと思うが、どうか。検出の遺構の部分よりもかなり右側まで堀は絵図では来ているので、ぐっと東側へ寄らないといけない。それとともに馬出しも東側へ寄らないといけない。確認して訂正を。

事務局：今、土橋の下に届くくらいで収まるようなイメージでいるが、実際に馬出しまでの距離はもう少し狭い。枡形自体も半分はお堀に突き出しているような形になると思う。

委員：河川改修の時の図面はないのか。県の河川課だと思うが。

事務局：まだ見つかっていない。

委員：県に探してもらってほしい。川の位置が適当ではない。明治になってから河川改修をした時にそれはないのか。

事務局：絵図からするとこれくらいまでできていたかもしれない。

委員：そうですね。かなり東へずれている。

委員：では、発掘調査は来年の1月から実施をして、また次回現地見学をさせてくれるそうです。

(2) (非公開)

報告

(1) 乙川河川緑地のさくら植樹について

事務局：当日配布資料3をもとに説明

【質疑応答】

委員：桜を切ったところにまた桜を植えると元の桜の株が残っているのでは。

事務局：発掘等々で抜根している。

委員：桜を植えるのはいいが、桜の樹種は何か。

事務局：ソメイヨシノを計画している。

委員：ソメイヨシノは一般的すぎる。いうのもあるし、カワヅもいいがヤマザクラ系などを植えるなら丈夫である。桜と桜の間は何メートル離れている

のか。

事務局：7メートル離れている。

委員：最低10メートルあけないといけない。今までは6メートルが多いが、大きくなって枝が重なってけんかして切る。そうすると桜の樹勢が弱くなってそこから腐りが入る。それと光が当たっているのかどうか。ここだとエノキやマツなどの影響があるのかどうかまで考えないといけない。それと土壌改良しないといけないと思う。そういった細々したことは現場に行ってみないとわからない。本当に桜を2本植える必要があるのか1本でもいいのか、1本が大きく育てばそれでいい。2本隣同士7メートル植えてけんかさせて桜同士が弱っていくこともあるので別に本数にこだわる必要はない。

事務局：本数にこだわっているわけではない。

委員：他の都市といった事例もある。最初はさみしいから本数を増やすが、実際は1本でいい、などもある。その辺はまた検討してもらいたい。何かの機会があれば現場に行かせてもらって2本から1本にすべきと指摘する。植えないほうがいいのかもかもしれない。

事務局：次回、こちらは議題として挙げさせていただく。また、坂谷曲輪をご覧いただきたいと思っているので、その際に同様に現地見学を予定している。

委員：ソメイヨシノはやめたほうがいい。

事務局：ご意見は投影させていただくが、市のビジョンとして進めている。ソメイヨシノが市の桜でもあるので。

委員：別にソメイヨシノにしなくてもいい。

事務局：そこも含めて協議をすることは可能。岡崎城跡の史跡外だが、外ととっても重要な遺構であることは話をしている。ただ、さくら名所100選であることも事実なので、両方生かせるような形で進めていければと思っている。

委員：さくら名所100選を継続されるなら、城内の桜の管理がものすごく悪い。桜を大切にしているとは思えない。

委員：当然、やるのであればしっかりと管理してほしい。一番困るのは、枯死したらすぐに更新となること。

委員：更新ではなく、手当。お礼肥えなど桜1本1本に丁寧なやり方をやっていない。弘前に行って勉強してきてほしい。

事務局：補正を立てていく予定ではある。

委員：決定される前に早めに相談してほしい。樹種もソメイヨシノはやめたほうがいい。

事務局：そのようなご意見を伝えさせてもらう。

委員：菅生川端石垣の上だと思うが、これは史跡の外側だけれども、あの石垣を

顕在化させようと頑張ってきた経緯があり、重要な岡崎城の石垣遺構であるので、それはすごく大事にしないといけない。その上に今植えたら大丈夫かもしれないが、将来的なことを考えないといけない。今日本中の石垣を傷めつけているのは石垣の近所に桜を植えた結果である。ここに植えて将来的に石垣をいじめて孕ませる原因になるようならば、これは史跡の外であってもやはり今そこに植えるのはよろしくない。さくらの名所 100 選と共存しないといけないが、本質的なもので、傷めつけるのであればそれは共存ではなくなってしまう。現地しっかり見てもらって判断をしてもらわないといけないと思う。

委員：石垣と桜の関係がこんな図では分からない。現地も重要だけれども。天端の方に植えるのか。石垣のすぐ近くに植えるというのは考えられないが。

事務局：石垣のすぐ近くに植えることは考えていない

委員：考えていないけどその資料がでないと言えない。原則としてダメと試してみたらどうか。石垣に近いところはダメ。それで離して、上の方に植えるのは検討の余地がある、とかにしておかないと間違いを犯す。

委員：県で植えられるのか。法面の中に倒木を植えるなんていかんと聞いているが。

事務局：菅生川も洪水が多い川で、今年6月にも大雨が降ったが堤防すれすれまで水が来ていたという実情がある。そこより上ならいいというのが愛知県の河川管理者から言われている状況。そこから上という石垣からは離隔があると思っているが、私も専門家ではないのでその辺は一度ご覧いただく必要がある。また調整してお力をお貸しいただければ。